

Centimetres

KODAK Color Control Patches

© The Tiffen Company, 2000

Kodak

LICENSED PRODUCT

3/Color Black

White

Magenta

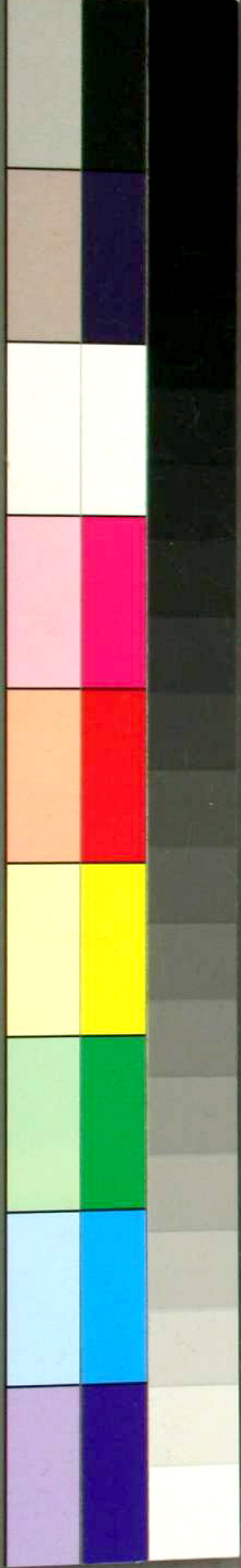
Red

Yellow

Green

Cyan

Blue



繪本合邦辻

十

49
透13
p72
10



0

1

2

3

4

5

6

7

8

9

10

1

2

3

4

5

6

7

8

9

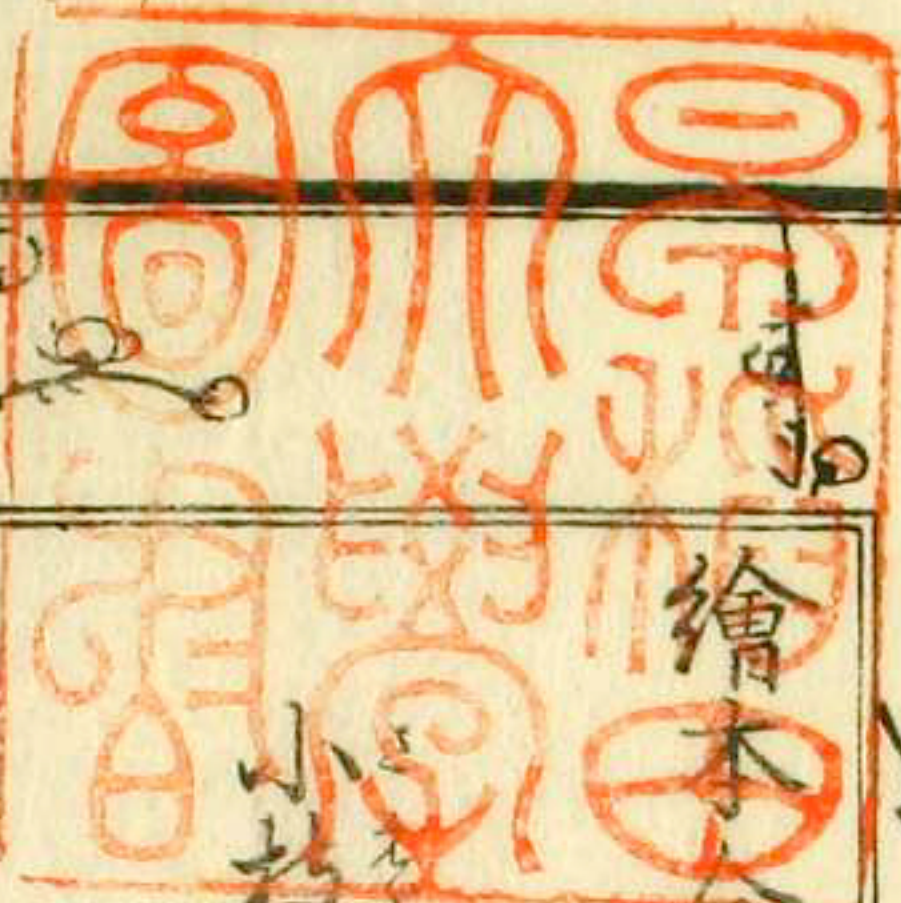
20

1

2

3

門連
號 872
卷 10



繪本合邦辻卷之十

目録

小枝敏言里見善吾(公事)と託(り)の(り)話

小枝大膳(右衛門)里見善吾(小令)成(り)神(々)話

松(が)枝(が)自(ら)折(る)の(り)話

里見善吾(右衛門)公(事)成(り)神(々)話

柳(が)枝(が)自(ら)折(る)の(り)話

小枝敏言(右衛門)居(る)を(免)さ(れ)の(り)話

半(平)間(魔)堂(右衛門)体(づ)成(り)神(々)話

繪本合邦辻卷之十

明治三十二年
十月十日
購求

高橋簡兒大長寺の勅諭を仰る結

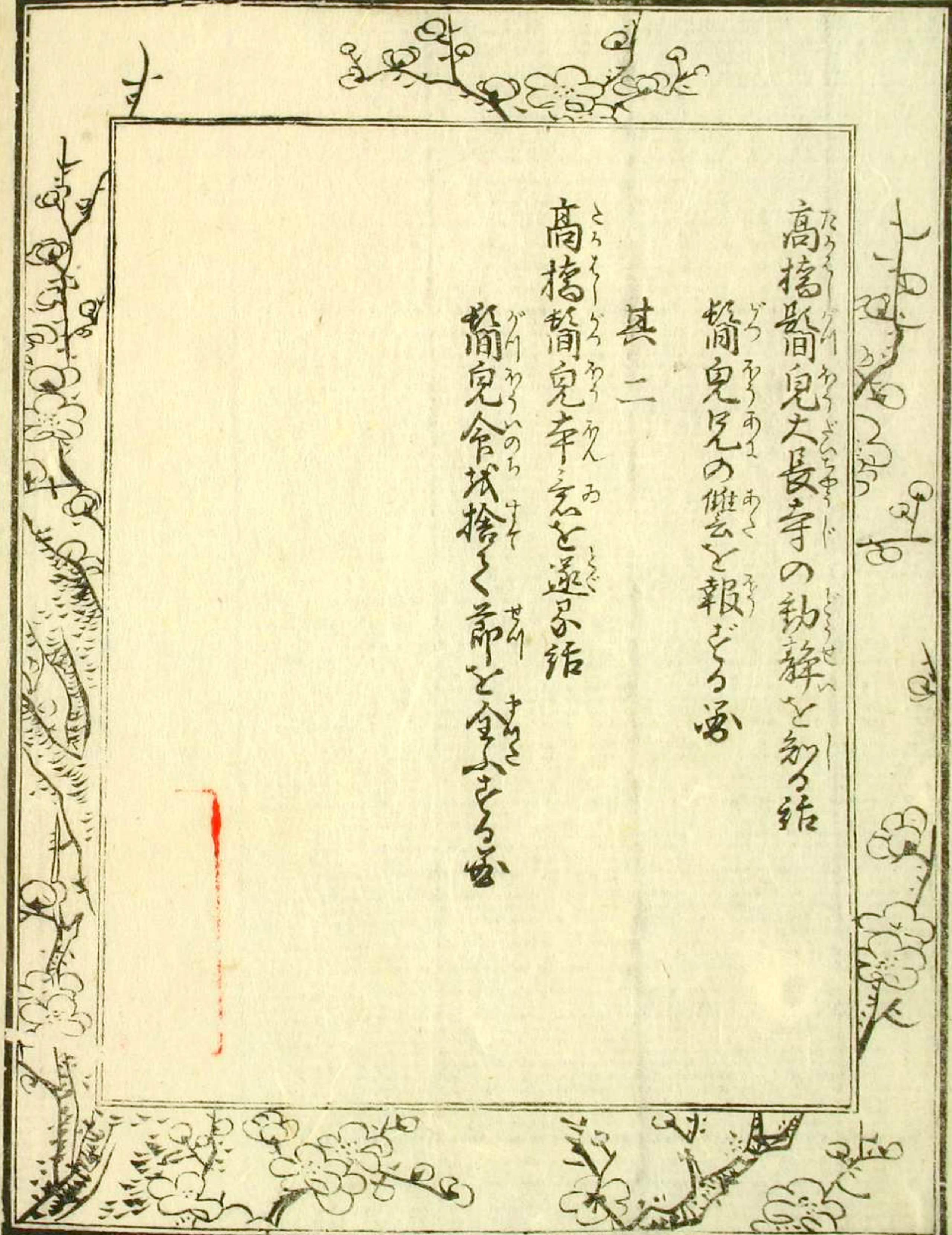
簡兒兄の御云と報ぐる由

其二

高橋簡兒奉之を遠見結

簡兒令以捨く帝と令よる由

ナ

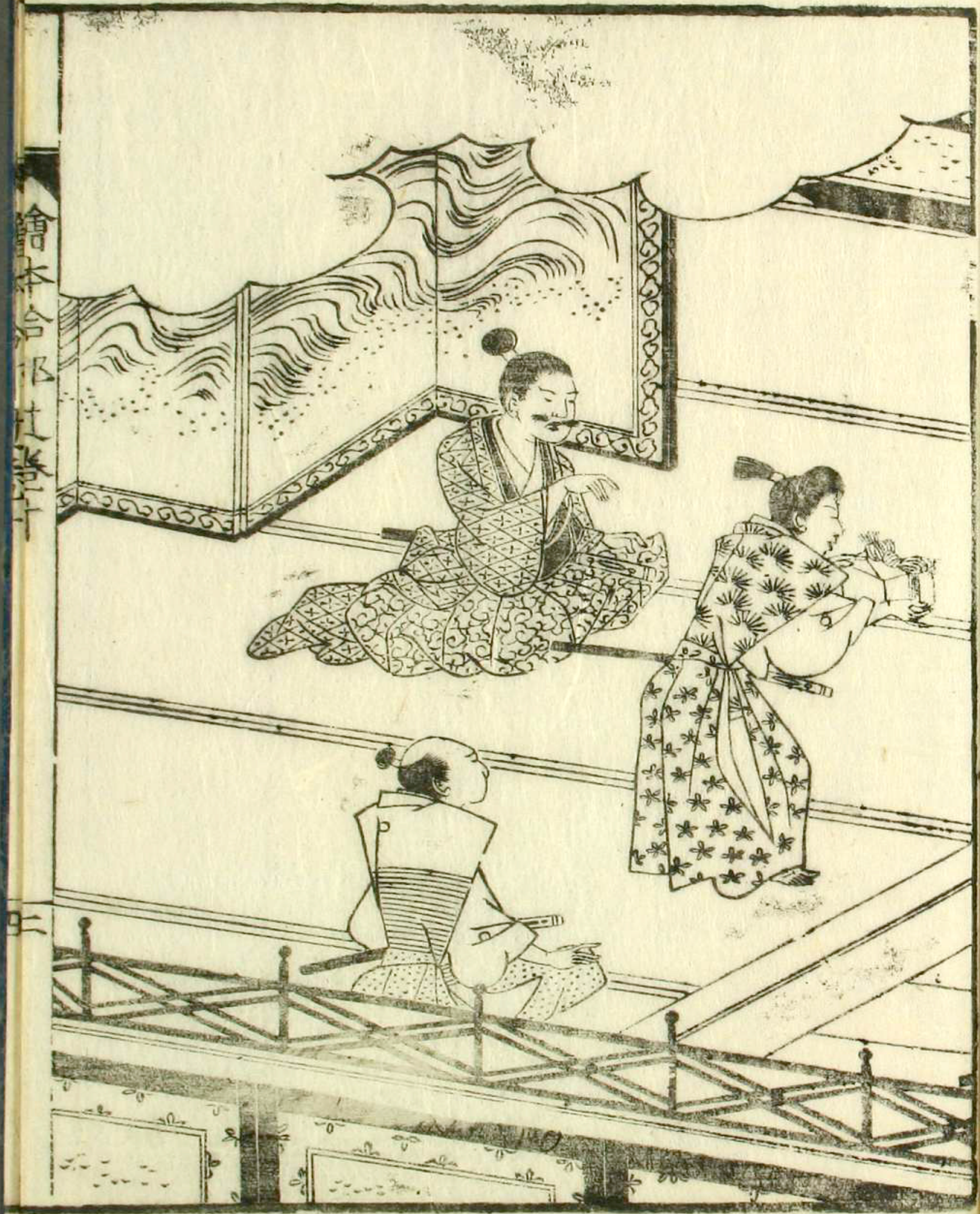


繪本合邦辻巻之十

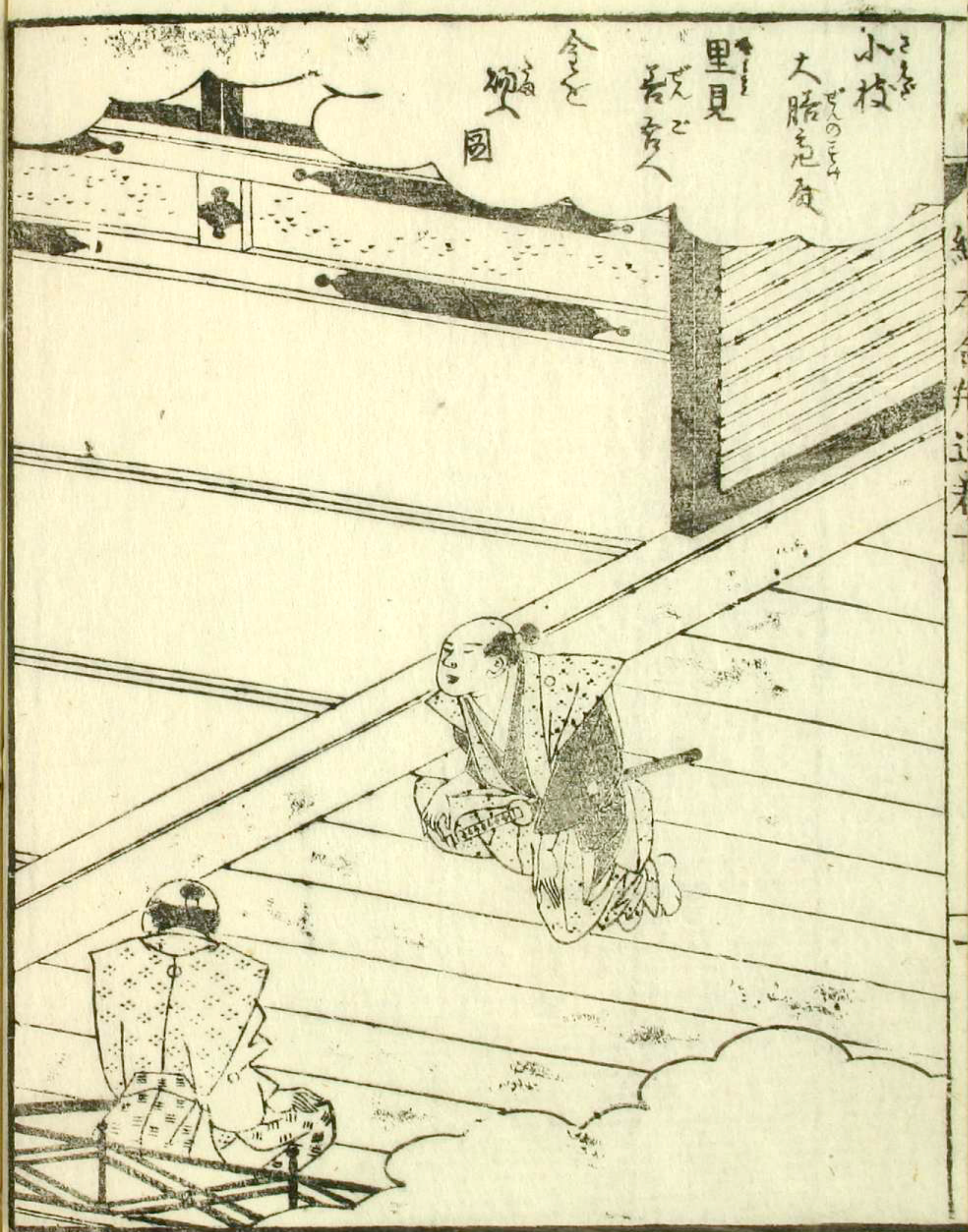
小枝教る里人若安を命と沈むる結

秀驥標に依りて志平里に在り合翼と揚るるに柳更のまきとすむ物
柳枝たる夜を人病く其奉と慕ふるふあんや却て小枝人膝もるる暴
逆のゆひ増長し一回は困居の身とするのひくく自折の橋よりとるを
よび却て教通云と恨むを居と替く合翼の御心職よりくが月日若き
はく思ふ如くは遣る結く若の御心と知り一は教通云の御心職
若困居と免くして色に及程あのはははは教通云奉来の御心を御心
わんもの良心を教るの御心職にして若の御心職は御心の御心職は
よび却て教通云の御心職は御心の御心職は御心の御心職は御心の御心職は
若困居と免くして色に及程あのははは教通云奉来の御心を御心

繪本合本廿七卷下

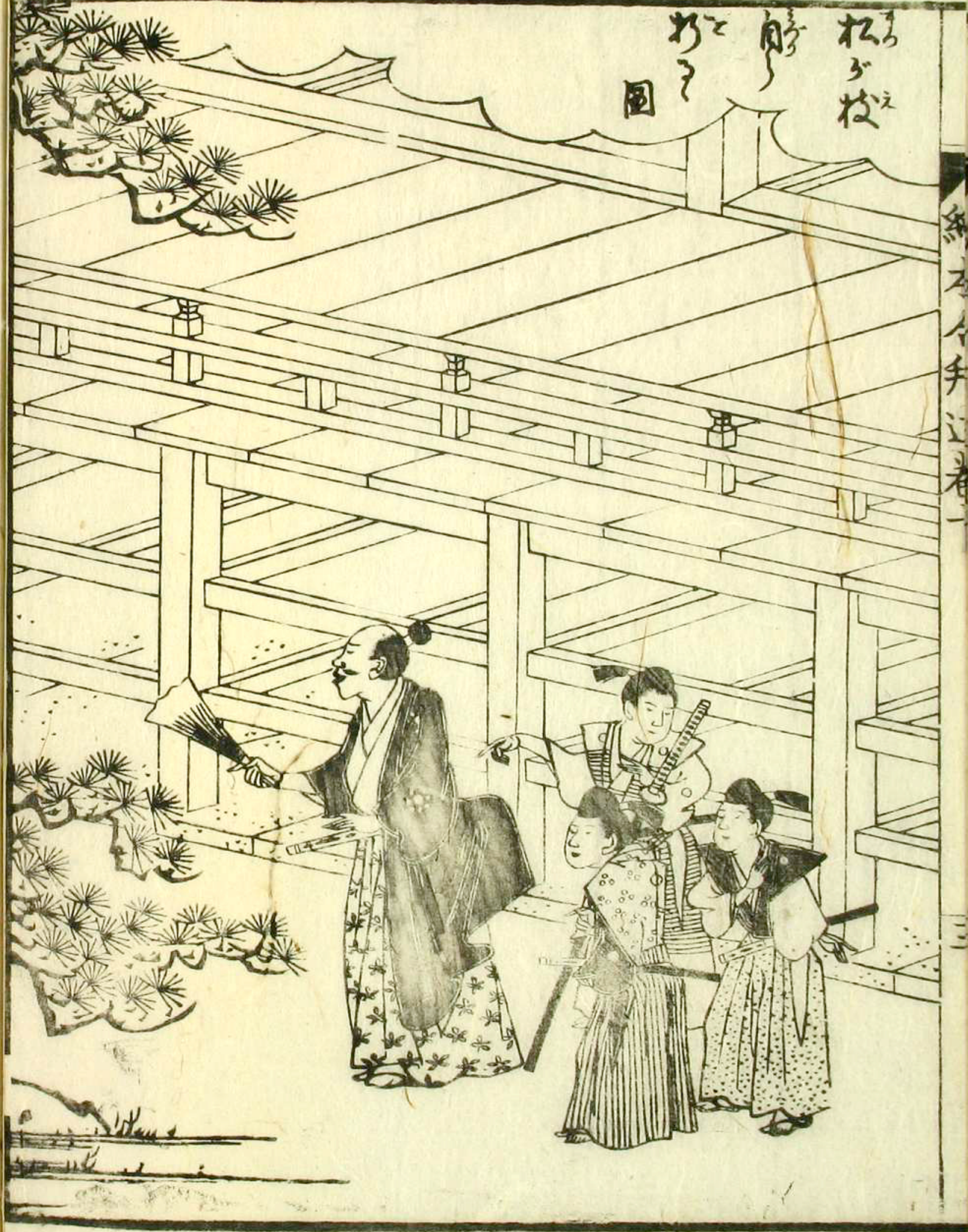
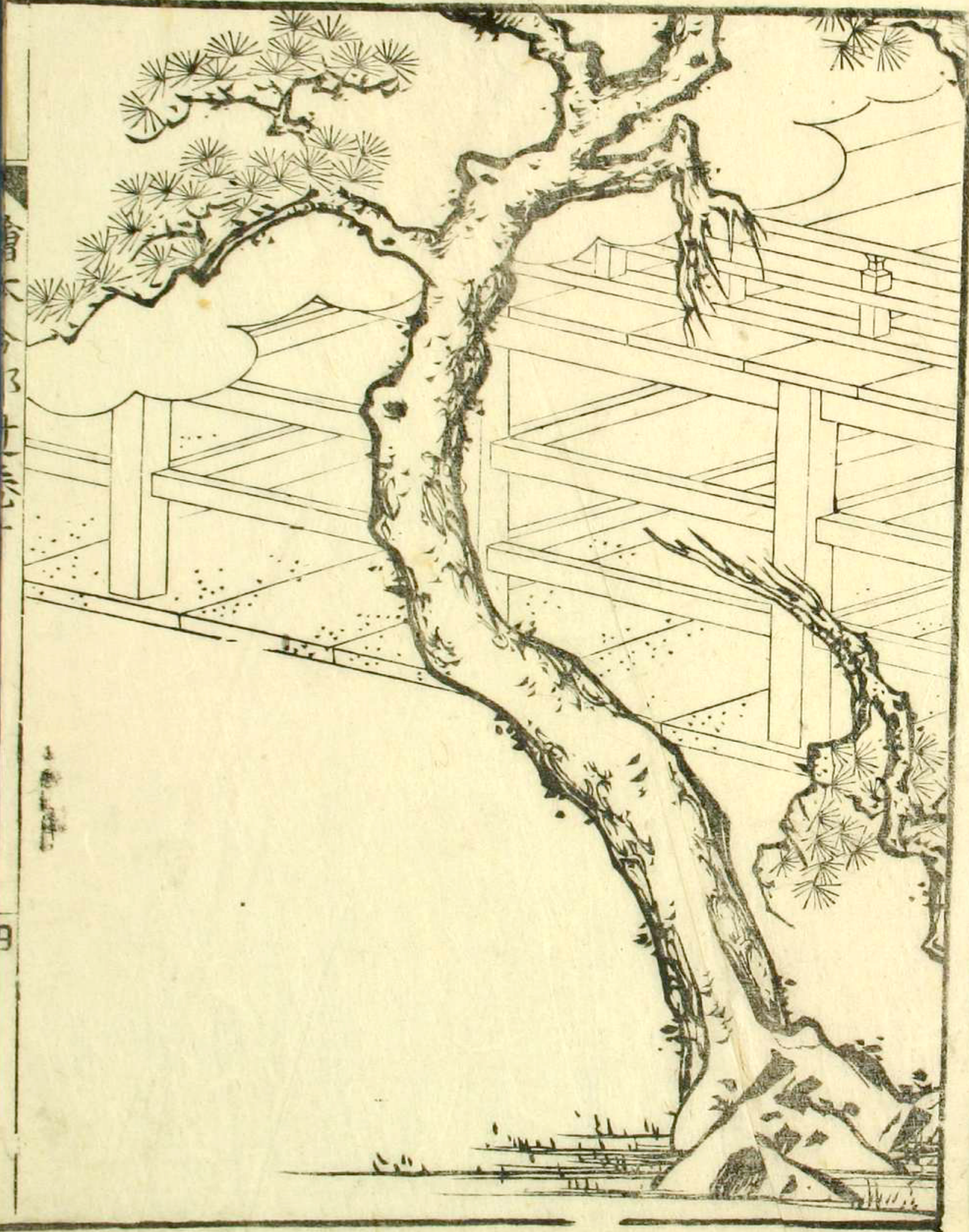


小枝
 大膳毛色負
 里見
 吾人
 合本
 圖



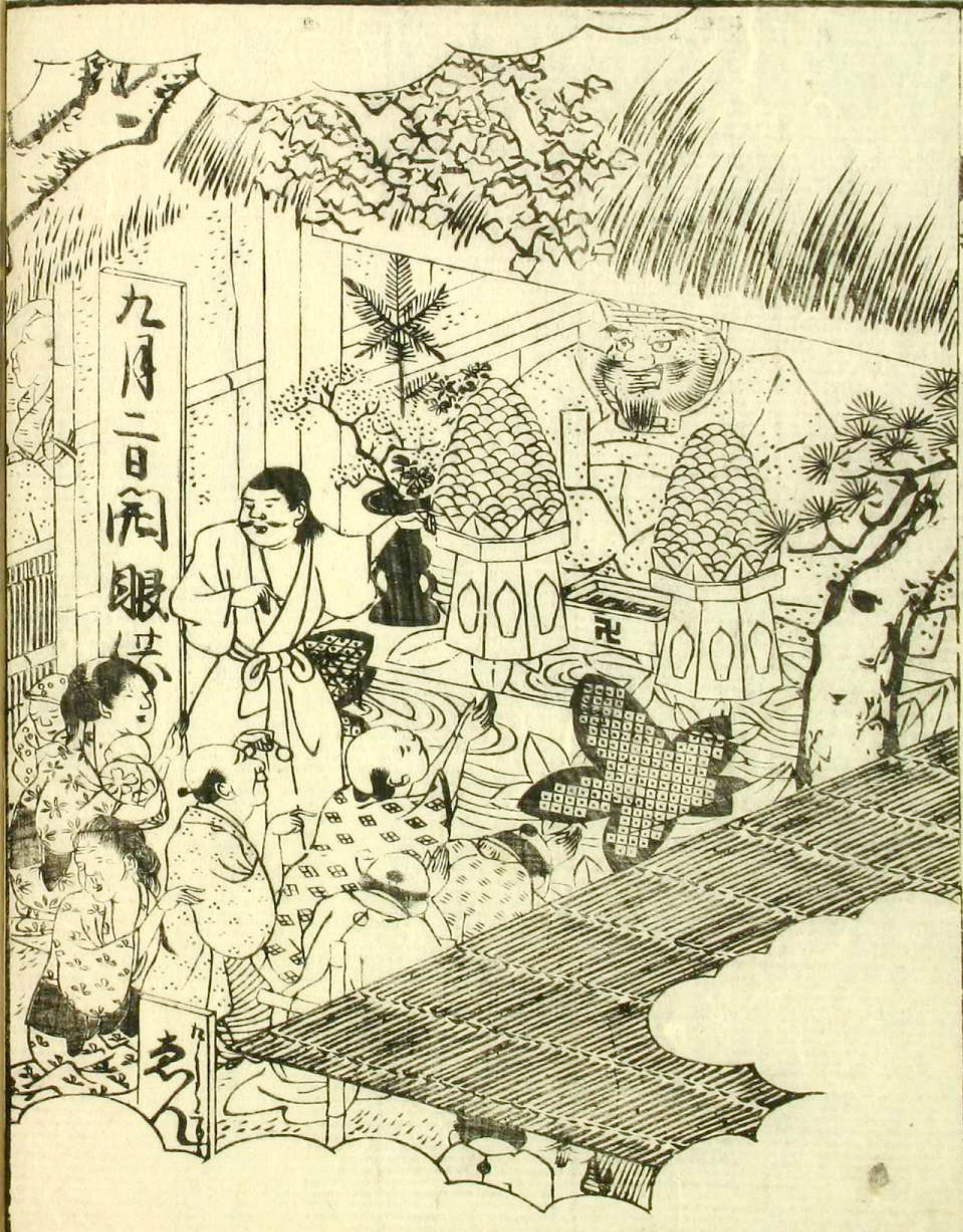
繪本合本廿七卷下

なるべしとて、教奉を廻し、いさぐ一、時熟思過をこし、いさぐ一、未だおれを
 したる、困居を更さるるの所、活よる、いさぐ一、今、おれ、いさぐ一、いさぐ一、
 果する、不考、活よる、いさぐ一、いさぐ一、いさぐ一、いさぐ一、いさぐ一、
 出さん、と、畏て、來、又、通、いさぐ一、いさぐ一、いさぐ一、いさぐ一、
 とも、冷、いさぐ一、いさぐ一、いさぐ一、いさぐ一、いさぐ一、いさぐ一、
 遊、頭、智、勇、力、を、是、あ、り、と、いさぐ一、いさぐ一、いさぐ一、いさぐ一、
 其、いさぐ一、いさぐ一、いさぐ一、いさぐ一、いさぐ一、いさぐ一、いさぐ一、
 海、作、せ、いさぐ一、いさぐ一、いさぐ一、いさぐ一、いさぐ一、いさぐ一、
 公、事、と、いさぐ一、いさぐ一、いさぐ一、いさぐ一、いさぐ一、いさぐ一、
 も、いさぐ一、いさぐ一、いさぐ一、いさぐ一、いさぐ一、いさぐ一、いさぐ一、
 我、酒、を、いさぐ一、いさぐ一、いさぐ一、いさぐ一、いさぐ一、いさぐ一、
 あり、いさぐ一、いさぐ一、いさぐ一、いさぐ一、いさぐ一、いさぐ一、いさぐ一、
 ほど、いさぐ一、いさぐ一、いさぐ一、いさぐ一、いさぐ一、いさぐ一、いさぐ一、
 が、迎、く、いさぐ一、いさぐ一、いさぐ一、いさぐ一、いさぐ一、いさぐ一、
 と、いさぐ一、いさぐ一、いさぐ一、いさぐ一、いさぐ一、いさぐ一、いさぐ一、
 い、奥、方、より、いさぐ一、いさぐ一、いさぐ一、いさぐ一、いさぐ一、いさぐ一、
 い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、
 小、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、
 と、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、
 何、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、
 又、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、
 菓、子、と、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、

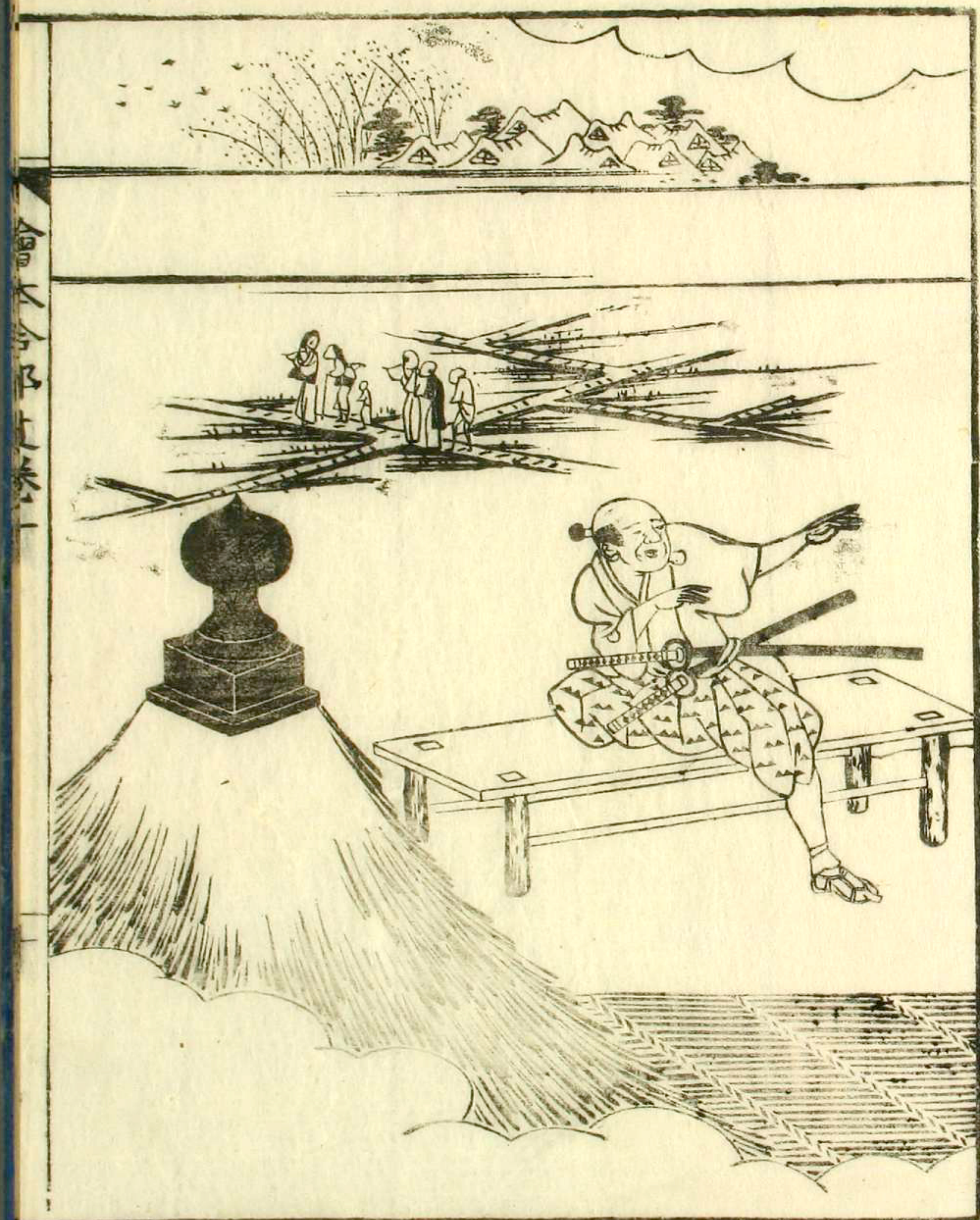


乃この心あるそのまうと心をひく良く思ふにうがえん伶俐なる
 男の心は急げり見はひくまは佐付らるる子細あまこと高野の所方ふ
 色は汗潤も佐助まうがく先いひてまがとて平のめふとそんたり
 何れ今大膳危候の汗用をまがとて理ははしとめふもふく所連枝るまが
 閑居の佐付果のまがとてあはれ今汗公候るるぬ時まがとて汗用とも改じ
 直ぐ以後のおゑもまがとて先竊まがとて探く後危も南も西まがとて其
 後宿直まがとてあり取候勢候て後高は大膳危候汗許まがとて初高の士と
 強く敏通るる汗内命の汗使るるいと稱く汗目通と清大膳危候まが
 も真まがとて情りの心懸く汗側まがとてまがとて汗膝まがとてまがとて
 の御候と告じし御まがとて汗間まがとての効とて取候はし西れのおまがとて
 汗と施りの汗御候とて汗高はまがとて上ははとておまがとて大膳危候を候候

素はうはたをまがとて一事まがとて其候まがとて本まがとてひまがとて汗間其まがとて通世
 又早も候りておまがとてはまがとて真子細列まがとてあはれまがとて未候くおまがとて悔
 と改の心まがとてまがとて佐くおまがとて閑居とまがとてまがとて人まがとて清まがとて今まがとて知
 其まがとてはまがとてまがとてまがとておまがとて通くおまがとて汗種まがとて入まがとてるまがとて汗
 ぬがまがとておまがとておまがとて汗種とまがとておまがとて通くおまがとて汗種まがとて入まがとてるまがとて汗
 里見もまがとてひのおまがとておまがとてまがとてまがとてまがとて平候おまがとて汗種もまがとてまがとて汗
 心中の申まがとてまがとてまがとておまがとて佐の趣畏てまがとてまがとて汗若汗閑居の事おまがとて汗種
 中まがとて汗種あつておまがとてまがとてまがとてまがとてまがとて汗種まがとておまがとて汗種
 及汗種まがとて汗種まがとてまがとてまがとてまがとて汗種まがとておまがとて汗種
 汗若汗閑居の事おまがとて汗種まがとておまがとて汗種まがとておまがとて汗種
 の二おまがとて汗種まがとて汗種まがとておまがとて汗種まがとておまがとて汗種



繪本合手江巻



祝兄のれと重し老臣と歎ひ其後の法后もその天の遇ひてあらざと
 巧のそのことども事記のよりのまゝに記す別人の如く所記の如
 じし敏通の諸老臣のつよはび一京中より要法の又ひとはははるあ
 らりたるとむく其奉も本末て秋の初よりし敏通の天孫を後
 所記法后は夏より下りて本意しする限るに候も高きもの如
 心より教奉氣貫の如法とはその自法法もよも失ふと案じ
 の一日大船危及し所法法の時足下にさる窮乏せし事うごが案
 備もあはし候ふとをいひ候の如くさるるに候もいひ候ふと
 懸つらばしと直しふ大船危及し候も困居とせさるるに候もい
 難有御意と案じ候ふに候も所法法もよもい通るるに候もい
 是れもいひ候ふと案じ候ふと案じ候ふと案じ候ふと案じ候ふと案

いも何と申す候へば所記の御記に候も所法法もよもい通るるに候もい
 の長と計りのあらは候もい候もい候もい候もい候もい候もい候もい
 の敏通の御記ありて其後候もい候もい候もい候もい候もい候もい
 候もい候もい候もい候もい候もい候もい候もい候もい候もい候もい
 子細あるは候もい候もい候もい候もい候もい候もい候もい候もい
 宗家加は候もい候もい候もい候もい候もい候もい候もい候もい
 是る中よりして所記の御記あり候もい候もい候もい候もい候もい
 是れ御記の御記あり候もい候もい候もい候もい候もい候もい候もい
 候もい候もい候もい候もい候もい候もい候もい候もい候もい候もい
 候もい候もい候もい候もい候もい候もい候もい候もい候もい候もい
 候もい候もい候もい候もい候もい候もい候もい候もい候もい候もい

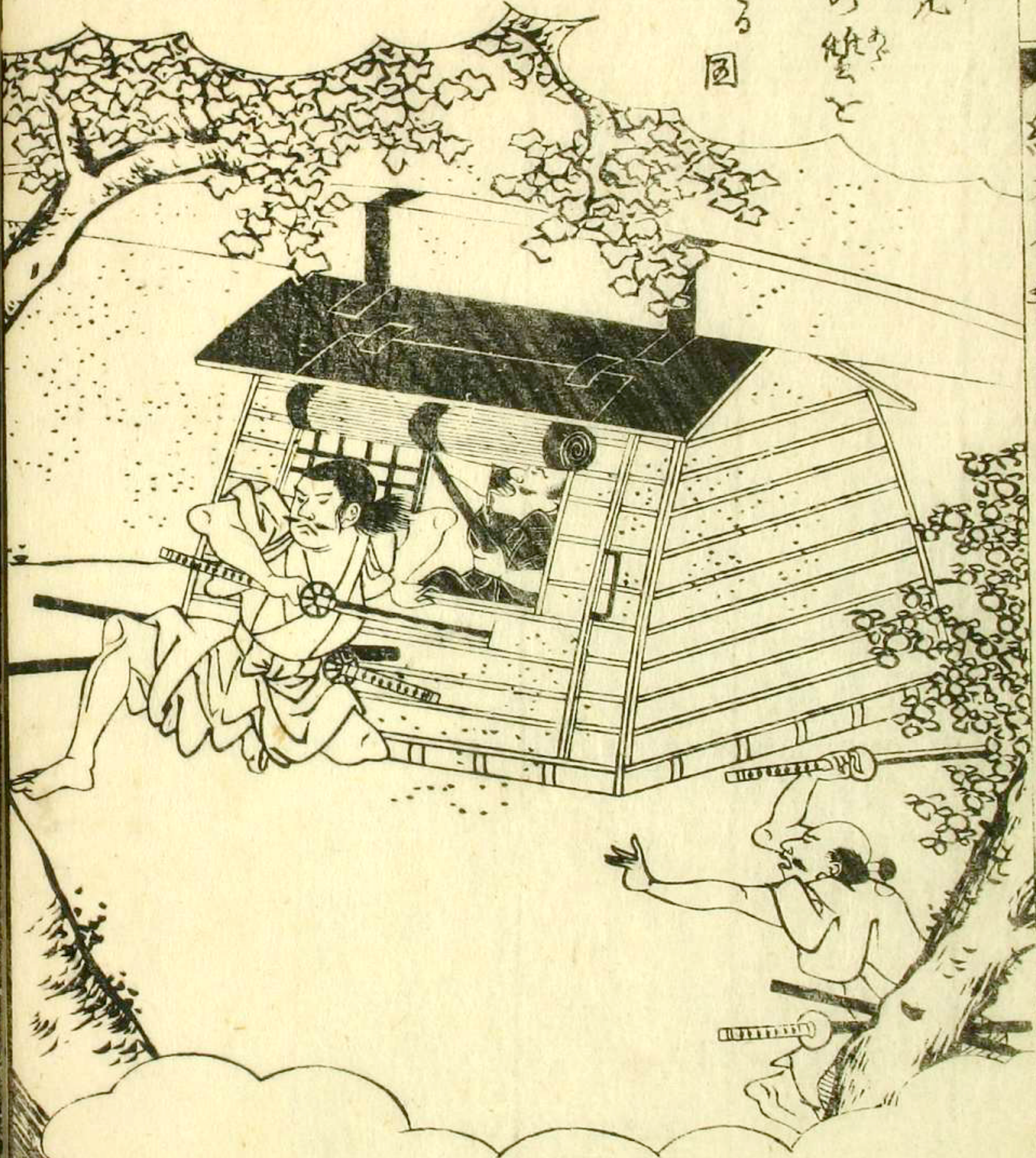
是の橋橋白父長者の初靜と知る候

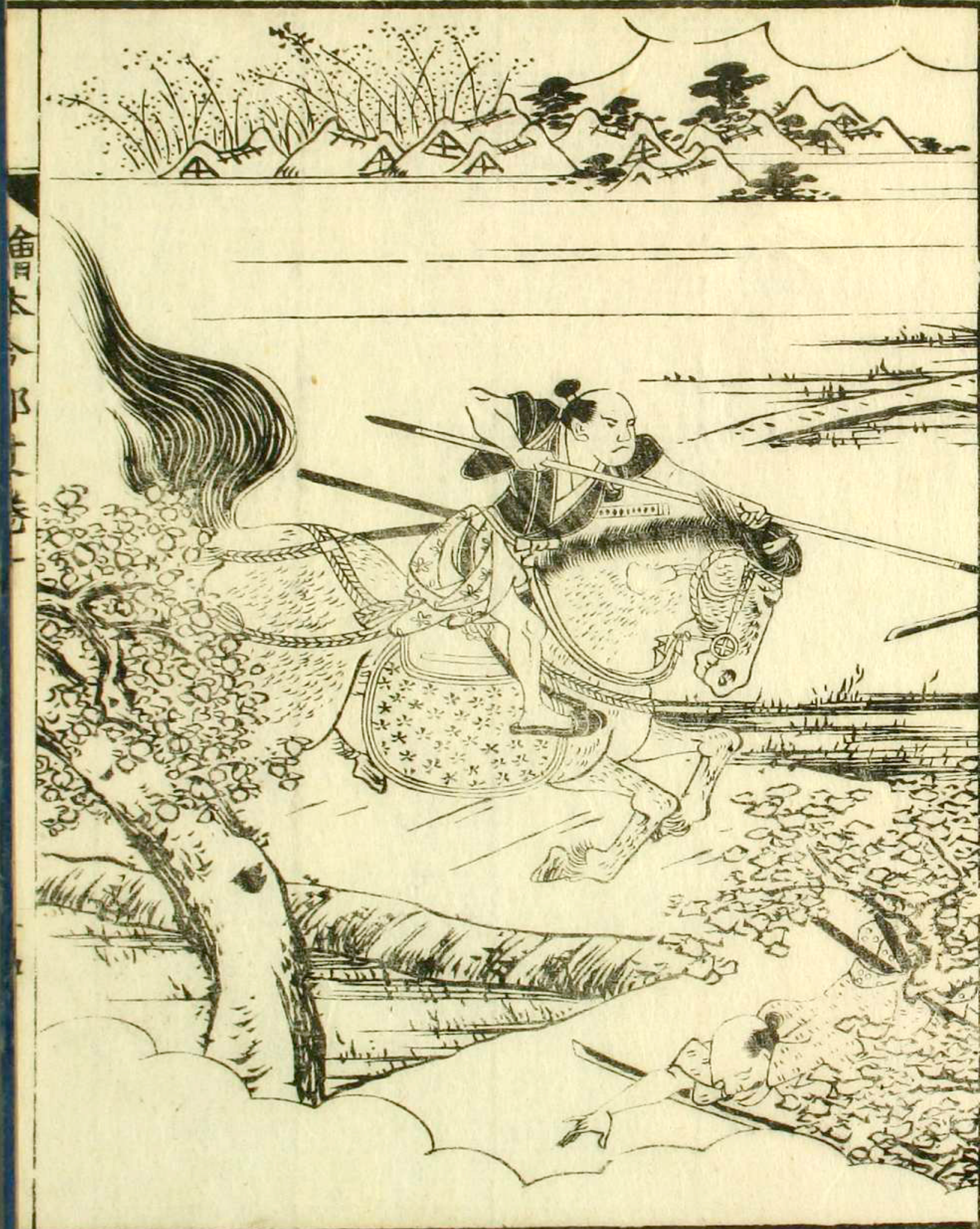
却後之指偷兒(後)以國(海)長(人)思(今)本(作)とせんと(志)と(改)し
 する(不)國(も)脚(分)出(今)之(胎)之(名)を(以)本(に)海(之)の(風)流(と)せ(し)其
 練(之)は(く)事(と)延(せ)折(分)の(村)離(又)故(く)依(舊)以(建)立(之)の(志)あり(と)ゆ(く)
 日(之)里(分)は(様)なる(は)里(正)勢(負)が(形)る(宿)を(あ)り(と)ま(す)又(も)知(れ)ね(勢)物
 の(事)あり(と)一(村)の(夜)氏(者)は(洋)流(く)ま(り)皆(お)初(の)飲(け)共(と)脚(後)せ(り)お
 急(る)は(は)し(と)同(屋)「者(之)に(本)竹(繩)懸(等)と(事)進(し)打(ま)く(故)辻(堂)の中(勢
 向(分)位(也)と(管)茶(疏)火(神)の(雜)具(と)も(取)扱(く)之(と)ま(止)好(多)の(食)り(と)指
 中(上)り(と)り(者)は(絶)と(せ)と(伴)休(し)る(は)脚(八)引(食)り(の)り(社)ら(者)も(南
 也)志(の)中(也)と(不)分(分)方(方)より(絶)と(せ)と(臣)く(其)後(は)一(改)し(と)繼(ぐ
 偷(更)と(は)事(は)移(り)懸(り)方(る)偷(兒)之(心)より(ぬ)里(之)情(は)周(く)屋(法)り
 復(也)と(ゆ)も(天)の(助)る(人)と(未)報(く)之(心)も(志)を(修)る(臣)と(多)く(知(能)功

と(ま)り(ひ)え(邪)ら(の)下(も)不(と)隠(人)と(殺)す(者)を(思)ふ(の)る(た)の(以)伴(成
 建(ま)せん(も)他(俗)し(は)足(高)地(は)足(と)高(も)揚(次)合(邦)計(の)務(を)ま(す)一(地)地
 二(機)也(と)く(是)爾(魔王)の(名)像(建)立(の)礼(と)出(故)地(の)揚(高)地(は)切(て)是
 也(腰)を(出)して(該)人(の)体(基)を(し)く(わ)き(茶)と(ま)た(と)信(て)二(紙)を(法)の(奇)と
 と(し)又(月)系(履)と(ゆ)り(て)畜(畜)該(人)石(時)の(水)は(腹)に(る)ど(く)其(昔)人(の)奇
 体(を)こ(中)に(遇)し(く)其(後)活(と)り(又)長(き)の(初)神(と)を(志)を(後)に(る)形(也)
 親(之)該(人)國(と)村(を)る(の)もの(を)も(よ)り(体)息(を)の(志)を(り)と(ゆ)信(と)其
 是(之)必(は)く(志)を(法)す(る)者(を)り(と)り(推)名(付)る(と)り(い)ち(也)醫(息)也(は)も
 唯(よ)る(形)と(潜)ま(り(て)時(と)行(る)は)果(く)脚(分)同(く)遠(く)と(小)枝(又)胎
 之(危)を(禁)固(と)事(を)ま(す)ひ(以)其(前)也(と)改(め)信(と)知(能)功(を)り(は)の(少)信
 る(は)一(偷)兒(竊)は(依)以(人)胎(危)及(禁)固(と)り(は)人(を)り(也)信(今)之(信)と



父を
 倚見
 足の健と
 報
 じらる
 固





金月



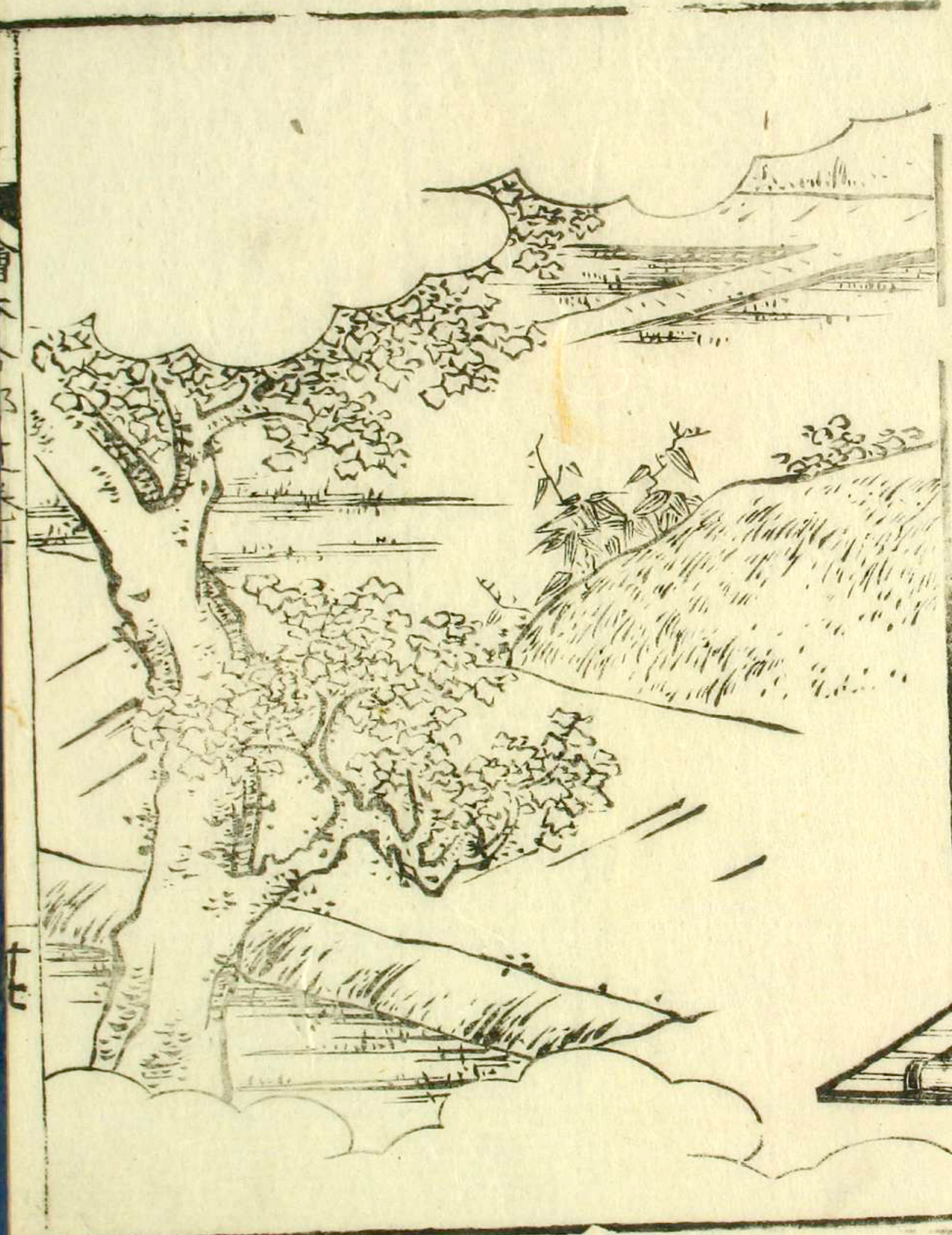
其二

繪本合弁遊覧

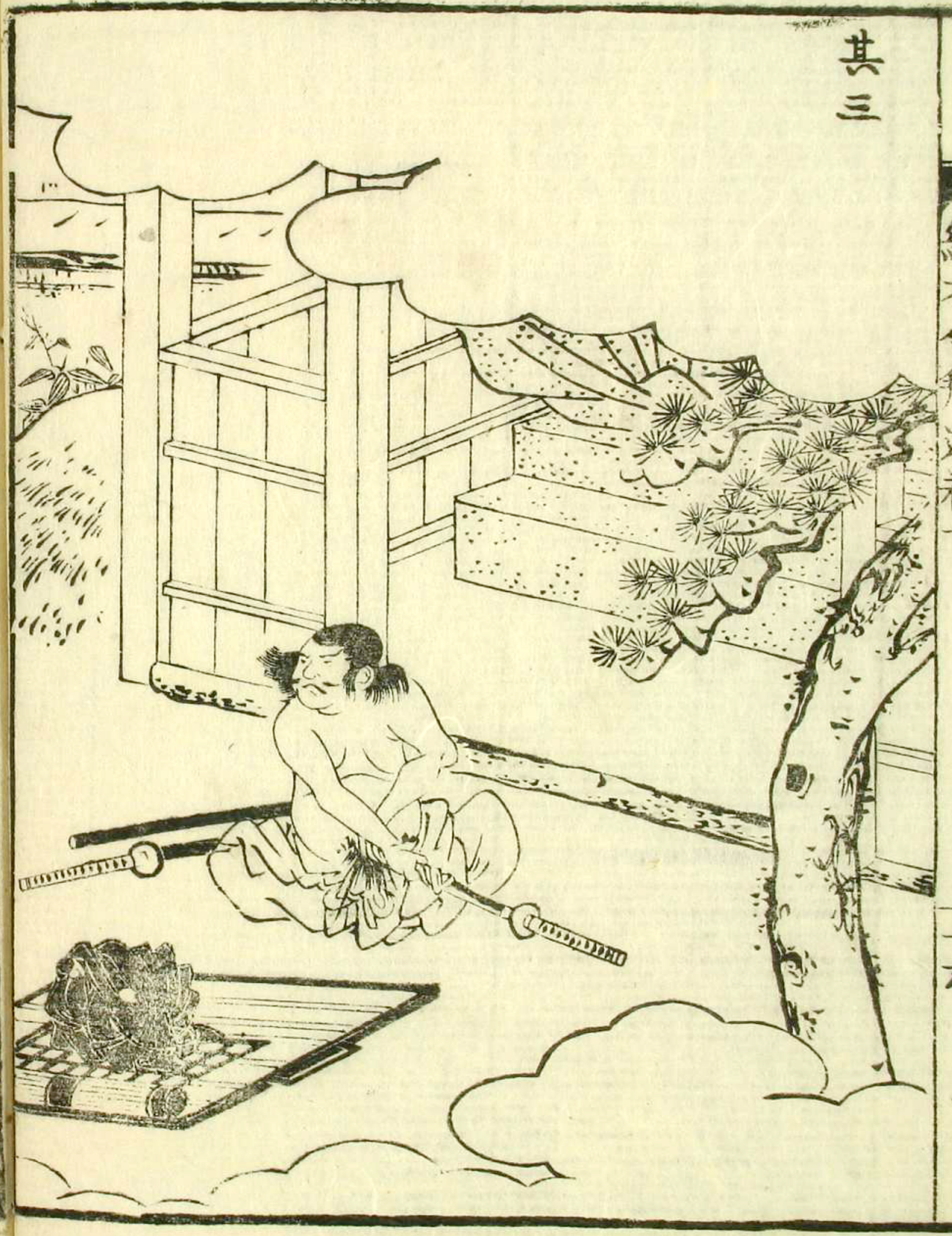
とていふ事もあらず中々夜の御とほなる在縁今日茶花くそ日にあつ
 又敷の初静と妻く同なるまゝを致しそむ時曾て女音の情と忘れし後
 のまゝを致し切射するは酒はしる早きもめは後日と過日なりふ小幸より
 傷みの思あはせぬもまゝく形入るまゝは今日中の對面只今とほる時乞
 のをせせへは流敷の縁とほる助八もまほしむをせと燃れと御衣をよ
 た所をせめま市されは風を魂と激くまゝの時の流はれは流はれしを
 たわつてへりくあるもの流坊と流坊思曲の秘と兼く流坊とまゝ正を
 ぶとまゝの御衣のせは事さる不忠を人の陰謀まゝも流敷の流坊と
 領心く致し備免免を初し推し死にんままをまゝとせむは時來ては
 ぶとまゝの御衣のせは事さる不忠を人の陰謀まゝも流敷の流坊と
 流坊とまゝの御衣のせは事さる不忠を人の陰謀まゝも流敷の流坊と
 流坊とまゝの御衣のせは事さる不忠を人の陰謀まゝも流敷の流坊と
 流坊とまゝの御衣のせは事さる不忠を人の陰謀まゝも流敷の流坊と

その橋備免事とてまゝ法

御流小枝大膳危後へ上方面の流敷の御衣の流敷六年九月の日大長とてを途
 くそ真目へはばははは入あつて内預の許室の流敷とまゝとせむは日加那流敷
 流敷の御衣の流敷とまゝとせむは日加那流敷とまゝとせむは日加那流敷
 とまゝの御衣の流敷とまゝとせむは日加那流敷とまゝとせむは日加那流敷
 水と流敷の御衣の流敷とまゝとせむは日加那流敷とまゝとせむは日加那流敷
 佩刀と流敷の御衣の流敷とまゝとせむは日加那流敷とまゝとせむは日加那流敷
 今中の御衣の流敷とまゝとせむは日加那流敷とまゝとせむは日加那流敷
 まで事備免事とてまゝとせむは日加那流敷とまゝとせむは日加那流敷
 人中の御衣の流敷とまゝとせむは日加那流敷とまゝとせむは日加那流敷
 の後まゝの御衣の流敷とまゝとせむは日加那流敷とまゝとせむは日加那流敷



其三



繪本合年五卷一

十六

くとけ其反を以てしてその起るべき所の面を以て拔きて之を以てして

また背負ひのうらとせしき先を本に引くるに依りて其の背に於て其の背に

足の挽と結せるとして其の挽と結びて其の挽と結びて其の挽と結びて其の挽と結びて

腹の右の腹のうらの脇に於て其の挽と結びて其の挽と結びて其の挽と結びて其の挽と結びて

とて其の挽と結びて其の挽と結びて其の挽と結びて其の挽と結びて其の挽と結びて

服を以てて其の挽と結びて其の挽と結びて其の挽と結びて其の挽と結びて其の挽と結びて

少くも其の挽と結びて其の挽と結びて其の挽と結びて其の挽と結びて其の挽と結びて

其の挽と結びて其の挽と結びて其の挽と結びて其の挽と結びて其の挽と結びて

今必りと定まるとして其の挽と結びて其の挽と結びて其の挽と結びて其の挽と結びて

とて其の挽と結びて其の挽と結びて其の挽と結びて其の挽と結びて其の挽と結びて

少くも其の挽と結びて其の挽と結びて其の挽と結びて其の挽と結びて其の挽と結びて

其の挽と結びて其の挽と結びて其の挽と結びて其の挽と結びて其の挽と結びて

少くも其の挽と結びて其の挽と結びて其の挽と結びて其の挽と結びて其の挽と結びて

其の挽と結びて其の挽と結びて其の挽と結びて其の挽と結びて其の挽と結びて

少くも其の挽と結びて其の挽と結びて其の挽と結びて其の挽と結びて其の挽と結びて

其の挽と結びて其の挽と結びて其の挽と結びて其の挽と結びて其の挽と結びて

少くも其の挽と結びて其の挽と結びて其の挽と結びて其の挽と結びて其の挽と結びて

其の挽と結びて其の挽と結びて其の挽と結びて其の挽と結びて其の挽と結びて

少くも其の挽と結びて其の挽と結びて其の挽と結びて其の挽と結びて其の挽と結びて

其の挽と結びて其の挽と結びて其の挽と結びて其の挽と結びて其の挽と結びて

少くも其の挽と結びて其の挽と結びて其の挽と結びて其の挽と結びて其の挽と結びて

久しに及ぶと裁切御はさすて死にへるゝ類稀なるを採のたまふと
 だじは後精材移すく加敷のたよとてにを附くと早の採はるゝと
 大胎危危の所死骸其骸の屍を負て扱候はたはたさう其入敷木柳の
 候はあつて下知と行にけ事上への候布せ御一の取地りつとあつて金中
 より御初等の侍にて大長衣送り候は柳の候は直とも其日る本
 里之等にも等しく化を制し候は御初等御見が死骸も里の心行りて
 之直しよの本まよは御八引まで起り吊ひさうを以今日の御初とまを智の
 るりしがを指地なる中と棄て候は常とあはる御採の積有文白日の橋へ
 うらむらむらと候はよその美法とさうて今もあつて人として凍結して毛
 骨とまをくじむたう云美世本配の今も是等とや其れらふたごは
 繪本合邦通卷之十文尾

三都

京都三茶通外屋町	出雲寺文次郎
同 寺町通松原	勝 村治右衛門
同 御幸町御池	菱 屋孫兵衛
江戸日本橋通二丁目	須原屋茂兵衛
同 同通二丁目	山城屋佐兵衛
同 横山町三丁目	和泉屋金右衛門
同 本石町二丁目	椀 屋喜兵衛
大坂心齋橋通東宝町	伊丹屋善兵衛
同 同通南本町北	河内屋徳兵衛
同 同通備後町角	近江屋平 助板

發行

書林

